

クレジット:

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2016 小島 毅

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



学術俯瞰講義 「古典は語りかける」

第八回 2016.6.8 東亞暦 丙申歳五月四日

小島 毅 (文学部次世代人文学開発センター)

論語を学ぶ、  
論語に学ぶ

「**學**について」

# 東洋文庫の企画展

- ◆ 「もっと知ろうよ！ 儒教」展
- ◆ 【会期】2016年4月20日(水)～8月7日(日) 【内容】儒教の教えは今からおよそ2500年前、孔子とその弟子たちによって説かれ始めました。その広がりには、中国大陸から朝鮮半島、台湾、ベトナム、日本列島など東アジア全域に及びます。「論語」が今日でも多くの読者を得ているように、一般には倫理道徳として理解されていますが、祖先崇拝を中心とした宗教としての性格を有すという考えもあります。「儒教とは何か？」という素朴な疑問にお答えすべく、表面は柔らかく中身の詰まった、お子様からお年寄りまでお楽しみ頂ける特別企画です。国宝『毛詩』、重文『古文尚書』、科挙の最優秀答案『殿試策』など儒教文化の真髄ともいえる名品の数々が一堂に会するこの貴重な機会、ぜひお見逃しなく！

東洋文庫ウェブサイトより

<http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/exhibition.php>

著作権等の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

東洋文庫ウェブサイトより  
東洋文庫ミュージアム企画展  
「もっと知ろうよ！ 儒教」展のイラスト  
<http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/exhibition.php>

## 2014年9月25日、孔子生誕 2565年の記念学会に出席し 講話をする習近平

「孔子の創った儒家学説およびそれを基に発展した儒家思想は、中華文明に深い影響を与えた、中国伝統文化の重要な構成要素だ」と演説

著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

人民網日本語版  
2014年9月25日  
「習近平主席が孔子生誕2565周年記念国際学術シンポジウムに出席(2)」  
<http://j.people.com.cn/n/2014/0925/c94474-8787711-2.html>

# 儒教は宗教か？

- ◆ 一般には「**宗教ではない**」とされている
- ◆ 17~18世紀のカトリック宣教師たちの認識
- ◆ 典礼問題：中国での祖先祭祀は、
- ◆ 「単なる社会慣行だから信者にも容認できる」か
- ◆ 「迷信(間違った宗教的信仰)なので信者には禁じるべき」か
- ◆ 19世紀のプロテスタント系統の「宗教」定義では、宗教ではなく哲学・道徳とされる
- ◆ 明治時代にいわゆる宗教とは別のものとして扱われるようになる
- ◆ 孔子はソクラテスと同類の哲人とみなされる

# 儒教の形成 (実際の歴史)

- ◆ 孔子 (BC.552または551~479) が門人たちに仁や礼の重要性を説いた
- ◆ 孟子 (BC.372~289) や荀子 (BC.298~235) がその教説を深化させる
- ◆ 漢代に理論化が進んで国教となる
- ◆ 以後、辛亥革命 (1911) までずっと中国の王朝体制を支える役割



From Wikimedia Commons

# 儒教の歴史認識(教義上のもの)

- ◆ 伏羲に始まる太古の聖王たちが理想的な統治を行っていた
- ◆ 堯・舜・禹、そして禹に始まる夏、湯王に始まる殷(商)、武王に始まる周
- ◆ 武王の弟で、幼い甥(成王)の摂政を務めた周公が完璧な国制を定める(周礼)
- ◆ しかし、周王の力はやがて衰え、周辺異民族(夷狄)におびやかされる
- ◆ そこで尊王攘夷をめざす覇者たちが活躍(春秋時代)した
- ◆ その経緯を記録した年代記を孔子が筆削して『春秋』を編纂

# 儒教の展開

- ◇ 漢～唐：訓詁学(漢学)
- ◇ 宋：朱子学
- ◇ 明：陽明学・・・朱子学の修正版
- ◇ 清：考証学・・・漢学の復興
  
- ◇ 宋学(朱子学・陽明学)は「理」という概念を重視して礼教社会を立てようとする
- ◇ 漢学(清朝考証学をふくむ)は(理ではなく)礼の細目そのものに意味を見いだす

# 北京の天壇祈年殿（外観と内部）

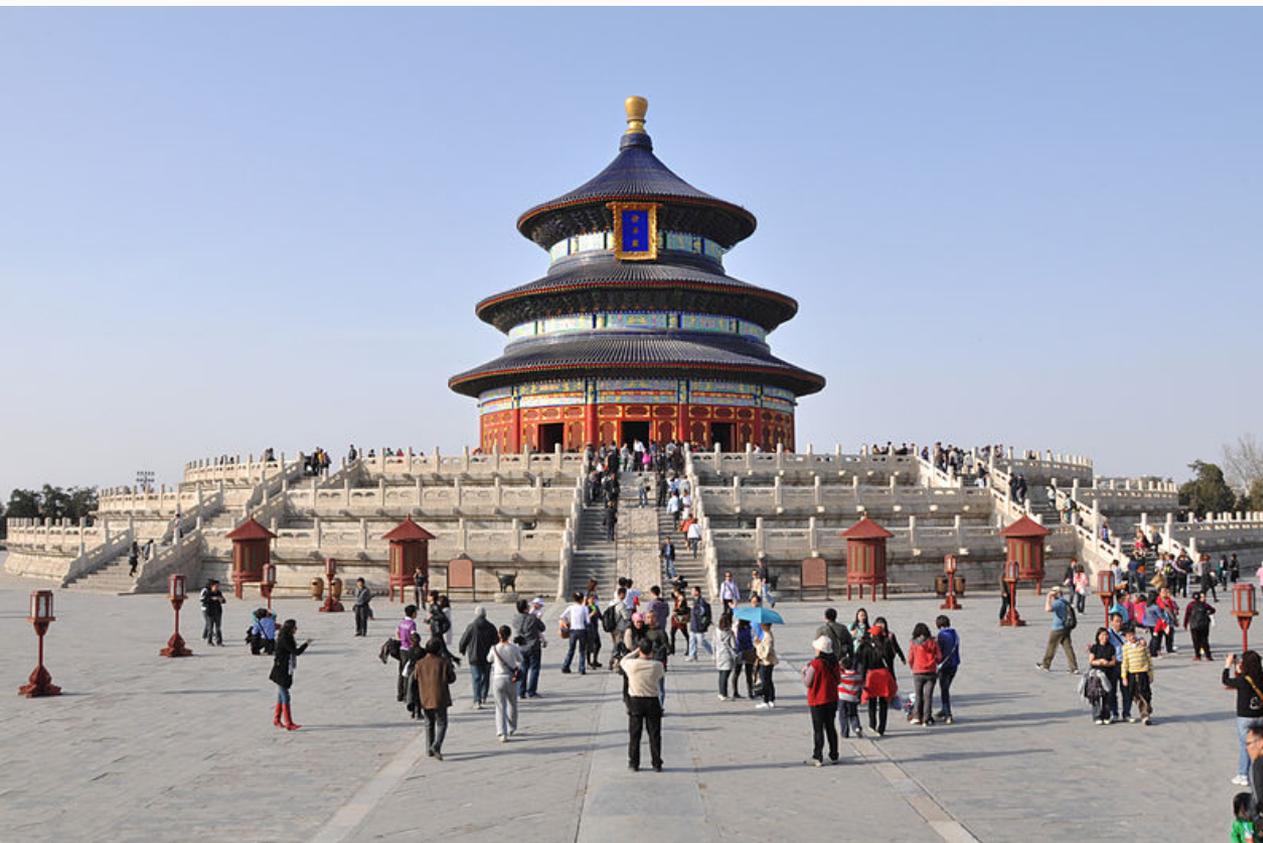


Photo by Charlie Fong, from Wikimedia Commons, ref. 20160614  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hall\\_of\\_Prayer\\_for\\_Good\\_Harvest.JPG](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hall_of_Prayer_for_Good_Harvest.JPG)

Photo by Daniel Case, from Wikimedia Commons, ref. 20160614  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hall\\_of\\_Prayer\\_for\\_Good\\_Harvests\\_interior\\_2014.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hall_of_Prayer_for_Good_Harvests_interior_2014.jpg)  
CC BY-SA 3.0

# 社稷壇（北京の中山公園のなか）



Photo by Yongxing, from Wikimedia Commons, ref. 20160614  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Beijing\\_Shejitan\\_2.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Beijing_Shejitan_2.jpg)  
CC BY-SA 3.0

# 曲阜孔子廟



Photo by Jacques Beaulieu, from flickr, ref. 20160617  
CC BY-NC 2.0



Photo by ermell,  
from Wikimedia Commons,  
ref. 20160617  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:China\\_Tianjin\\_5227592\\_\(03\).jpg?fastcgi\\_from=1303846&c1=1303846&d1=15&s=200&a=fqv](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:China_Tianjin_5227592_(03).jpg?fastcgi_from=1303846&c1=1303846&d1=15&s=200&a=fqv)  
CC BY-SA 3.0

# 関帝廟 解州（関羽の故郷）

著作権等の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

解州関帝廟の写真  
下記サイトに掲載

「旅情中国」

<http://www.chinaviki.com/china-travel/attractions/Shanxi/Yuncheng/Guandi-Temple-of-Xiezhou/>

# 『論語』の注釈書

- ◆ 全部で一千種類以上ある。(大半は散逸)
- ◆ 漢学の代表として現存するのが何晏(かあん)の『論語集解(しっかい)』
- ◆ 朱子学における古典は朱熹『論語集注』
- ◆ 土田健次郎に全文現代語訳あり(平凡社の東洋文庫、全4冊)。
- ◆ 日本で書かれた独創的な注釈書として、伊藤仁斎『論語古義』と荻生徂徠『論語徴』が著名

# Amazonですぐ買える現代語訳

(2016. 5. 31時点)

中国古典学研究者が訳したものから選択

- ◆ 宇野哲人 講談社学術文庫
- ◆ 武内義雄 岩波文庫
- ◆ 金谷治 岩波文庫(ワイド版もあり)
- ◆ 宮崎市定 岩波現代文庫
- ◆ 吉川幸次郎 朝日選書・朝日文庫
- ◆ 貝塚茂樹 講談社現代新書・中公文庫
- ◆ 倉石武四郎 筑摩叢書
- ◆ 久米旺生 徳間書店
- ◆ 加地伸行 講談社学術文庫

# その他の関連参考書

- ◆ 橋本秀美『論語——心の鏡』(岩波書店、書物誕生——あたらしい古典入門、2009年)
- ◆ 影山輝國『『論語』と孔子の生涯』(中公叢書、2016年)
- ◆ 松川健二は『宋明の論語』(汲古書院、2000年)で、『論語』から十数章を選んで11世紀から17世紀にかけての中国の論語注解を比較紹介している。

子曰、学而時習之、不亦說乎。  
有朋自遠方來、不亦樂乎。  
人不知而不愠、不亦君子乎。  
(学而第一、第一章)

- ◇ どう よむか？
- ◇ 訓・読
- ◇ 音読 と 字訓

子曰、学而時習之、不亦說乎。  
有朋自遠方來、不亦樂乎。  
人不知而不愠、不亦君子乎。  
(学而第一の第一章)

子(し)曰(いは)く、学(ま)びて時(とき)に之(これ)を習(な)う、  
亦(また)說(よろこば)しからずや。朋(とも)有(あ)り遠  
方(とほ)より來(き)たる、亦(また)樂(たの)しからずや。人(ひと)知(し)らずして愠  
(いきどほ)らず、亦(また)君(きん)子(こ)ならずや、と。

# 時は「とき」か

- ◆ 朱熹の注(『論語集注』)には、「既学而又時時習之」とある
- ◆ 現代日本語の「ときどき」ではない
- ◆ 「たまに」「思い出したら」ではなく、「常時」の意味に取るべきだという解釈
- ◆ 加地伸行は「つね」と訓読している
- ◆ 『Beポンキッキーズの論語』 p.106

著作権等の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

### 表紙画像

beポンキッキーズ (著), 加地伸行 (監修),  
小島毅 (編集)  
『子や孫と読みたい日常語訳 beポンキッ  
キーズの論語』  
産経新聞出版、2013年

小  
島  
架  
蔵

# 時は「とき」か

- ◆ 朱熹の注(『論語集注』)には、「既学而又時時習之」とある
- ◆ 現代日本語の「ときどき」ではない
- ◆ 「たまに」「思い出したら」ではなく、「常時」の意味に取るべきだという解釈
- ◆ 加地伸行は「つね」と訓読している
- ◆ 『Beポンキッキーズの論語』 p.106
  
- ◆ 貝塚茂樹は古代字義の研究成果にもとづいて、「ここ」と訓読し「そのあとで」だとする(p.8)

# 不愠について

- ◇ **愠**を何晏・朱熹ともに**怒**と解する。これに従って訓読すれば**不愠**はいからずもしくはいきどおらずとなる。ただ、この字には**怨**の意味もあるため、うらみずと訓読する人もいる。(金谷・宮崎・久米ら)
- ◇ なお、注4は小島の実事誤認(国語古典語彙に対する**不知**による)ため削除してください。
- ◇ **知之為知之、不知為不知。是知也。(為政)**
- ◇ 「**怨む**」は古くは上二段活用であり、近世期になってから四段活用が現れ、現代語の五段活用になった。
- ◇ 「**忍ぶ**」の場合は古来併用で、四段活用だと「**がまんする**」、上二段活用だと「**こらえる**」と意味が異なる。

子曰、学而時習之、不亦說乎。  
有朋自遠方來、不亦樂乎。  
人不知而不愠、不亦君子乎。

この三段構成について、皇疏は学業の進展に対応すると解する。すなわち、

第1段は「幼少の時」、

第2段は「学業がやや進んで友人たちと交わることができる状況」、

第3段は「学業が完成して師や君主となることができるありがた」を述べたものだという。

# 朱熹『論語集注』の解釈

- ◆ 朱熹の人間論の中核をなす性善説からこの章を解していく。すなわち、学の字を「効(ならう)」の意味であるとし、後覚の者が先覚者を模倣することによって自身があらかじめ具えている善なる性について明らかにし、人間本来のありように立ち返る(復初)のだと説く。
- ◆ 「楽しからずや」: 学業に励んでいる同志たちの共感作用。
- ◆ 「君子ならずや」: 人徳を完成させた者は他者からの評価をいちいち気に病むことはない。

# 子曰、徳不孤、必有隣。 (里仁第四の第25章)

- ◆ 子曰く、「徳孤ならず、必ず隣あり」と。
- ◆ 皇疏：「隣」は「報」の意であり、徳行は孤立せずきつと他者から報いられるとする。殷仲堪(?～399)の「誠を及ぼして交われれば善応がある」という趣旨の言を引き、応報思想で解している。

子謂子貢曰、女與回也孰愈。對曰、賜也何敢望回。回也、聞一以知十。賜也、聞一以知二。子曰、弗如也。吾與女弗如也。  
(公冶長第五の第7章)

子 子貢に謂ひて曰く、「女(なんぢ)と回と孰(いづ)れか愈(まさ)れる」と。對(こた)へて曰く、「賜(し)や何ぞ敢て回を望まん。回や一を聞いて以て十を知る。賜や一を聞いて以て二を知るのみ」と。子曰く、「如(し)かざるなり。吾與女弗如也」。

# 吾與女弗如也の解釈

## 『論語集解』

- ◆ 『集解』は苞咸の説を引く： 最初の「弗如也」は子貢の答えをうけて、「及ばないよね」、つまり子貢が顔回に及ばないことに同意したものの、二度目の「弗如也」は「吾与汝俱不如」すなわち「私はお前と一緒に（顔回に）及ばない」の意であるからだとする。そして、その理由を、そう付け足すことで「子貢の心を慰めようとした」というのである。

# 吾與女弗如也の解釈 皇疏所引の顧歡の説

- ◆ そもそも孔門四科のなかで顔回は徳行、子貢は言語に配属されているためその優劣は明確でなかった。そこで、孔子は子貢自身が両者の相違を認識しているかどうかを確認する質問をし、「**弗如**」という表現で判別をつけるとともに、「**吾與汝**」という表現で同じ見解であることを示した。それは、師である自分と同じ見解だと言うことで子貢を慰めるためだった、と。
- ◆ 「與」には「許」の意味がある。

# 吾與女弗如也の解釈

## 『論語集注』

- ◆ 朱熹は胡寅の注釈を引き、孔子が子貢の答えに同意したうえで「**重許之**（さらにそれを許した）」とする。朱熹の、與は許の意とする字解も直接にはこれに従っていることになる。ただし、胡寅がいかにかにして「**許**」とする解釈を取るに至ったのかは定かではなく、その過程において皇侃説が直接・間接に影響しているかもしれない。

# 吾與女弗如也の解釈

- ◆ 子貢に向かって、「きみのいうとおり、顔回は優秀な学生だ。きみだけではない。私も顔回には及ばないのだ」と言う孔子と、
- ◆ 「きみは顔回に及ばないよ。私も、きみが顔回には及ばないというきみの意見に同意するよ」と言う孔子と、**どちらが孔子の真の姿だろうか。**
- ◆ **あなたはどちらに與(くみ)するか？**